

潮 騷

第 47 号
平成31年
1月 1日

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会
〒102-0083 東京都千代田区麹町四十五
海事センタービル
電話 〇三・三三三・四〇六六二
FAX 〇三・三三三・四〇六八二

新年あけましておめでとぅございます

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会



会 長
朝 倉 次 郎

皆さまにおかれましては、おすこやかに新春をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

昨年は、西日本を中心として広範囲にわたる集中豪雨、超大型台風、さらには北海道胆振東部地震など大きな自然災害が相次ぎ、各地に甚大な被害をもたらしました。

被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早く平穏な生活が再建されることをお祈り申し上げます。

昨年9月14日、高円宮妃久子殿下ならびに絢子女王殿下におかれましては、絢子女王殿下のご結婚を間近に控えご多忙にもかかわらず「戦没船員の碑」にお成りになられ、ご供

花・ご拝礼を賜りました。両殿下の御心に感謝申し上げます。

さて、戦没船員6万余人もの尊い犠牲を払った先の大戦が終結し74年、戦争を体験しない世代の増加などにより、戦争への風化が進みつつありますが、私たちは二度とあの悲惨な戦争を繰り返さないためにも、戦没船員への慰霊、顕彰事業の重要さを広く国民に伝えなければならぬと痛感する次第であります。

申し上げるまでもなく、当会は、志半ばで先の大戦で犠牲となられた戦没船員と、海難等で殉職された船員の慰霊、顕彰と遺族援護ならびに海洋立国の精神を高揚し、海事思想の普及と海洋永遠の平和に寄与することを目的に活動しています。

当会の事業運営は厳しさを増しておりますが、関係団体や皆さまのご理解とご協力を賜りながら、戦没・殉職船員への思いを絶やすことなく、事業を続ける所存でございます。

本年も旧年に変わらぬご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

高円宮妃久子殿下ならびに絢子女王殿下

「戦没船員の碑」にご供花・ご拝礼

高円宮妃久子殿下ならびに絢子女王殿下が、平成30年9月14日、神奈川県立観音崎公園「戦没船員の碑」（横須賀市）を訪れ、戦没・殉職船員が眠る「安らかにねむれ わが友よ 波静かなれ」としえに」と刻まれた碑文石にご供花・ご拝礼された。



「戦没船員の碑」にご供花される
高円宮妃久子殿下と絢子女王殿下



朝倉次郎会長から「御製碑」「御歌碑」
の説明を受けられる両殿下

この日は、時おり小雨が降っていたが、両殿下が「戦没船員の碑」に御着されると雨もやみ、日本殉職船員顕彰会・朝倉次郎会長、日本船主協会・石川尚常務理事、全日本海員組合・立川博行中央執行委員、日本内航海運組合総連合会・小比加恒久会長、神奈川県横須賀土木事務所・久保徹所長、日本殉職船員顕彰会・半田收理事長が奉迎した。

朝倉会長の先導で、両殿下は碑文石の前に進み、ご供花とともに深々とご拝礼を捧げた。

両殿下は、朝倉会長から「戦没船員の碑」は先の大戦で犠牲となった6万余人の船員の御霊の鎮魂と、海洋永遠の平和を願って、海事関係者が中心となって、昭和46年に建立。同年5月、降りしきる雨の中で第1回戦没船員追悼式を皇太子同妃殿下（現・天皇皇后両陛下）の行啓を賜り挙行したことや、天皇皇后両陛下が戦没した船員を悼み、お詠みになられた「御製碑」ならびに「御歌碑」についての説明を、熱心に聞き入っておられた。



蔵王の火口湖「お釜」(五色沼)、左の尾根が「馬の背」
右の尾根が「五色岳」……刈田岳山頂から

戦時徴用船遭難の記録画展 山形で開催

戦時徴用船の最期 大久保一郎 遺作展

平成30年7月27日から8月5日まで、山形県山形市の山形県芸文美術館で、第44回「戦時徴用船の最期 大久保一郎遺作展」を開催した。
山形市や近隣などから遺族や市民、約600人が来場し、壮絶悲惨な戦没船と船員の記録画と絵画のモノクロ写真を熱心に見入っていた。

山形県内での戦時徴用船遭難の記録画展は、今回が初めての開催。

戦時徴用船遭難の記録画展は、これまでと同様に貴重な記録画を通して、ご遺族はじめ多くの市民の皆様

にお伝えし、戦争の悲惨さを実感していただくとともに、平和の尊さを再認識してもらうことを目的に、日本殉職船員顕彰会が全国を巡回して開催している。

先の大戦は、昭和16年(1941)12月8日勃発。終戦までの3年8カ月の間、主に米国と戦った。

四面を海に囲まれ、資源のない日本は、原油・鉄鉱石などの鉱物資源や生活物資を求めて南方へ進出。それには、兵隊や武器・弾薬などの軍需物資と資源などの輸入物資を運ぶための大量の輸送船隊と海上輸送路(シーレーン)の確保が絶対条件であった。

「国家総動員法」によって、すべての国民が戦争に巻き込まれ、民間の船と船員のすべては「戦時海運管理令」によって、陸軍、海軍、船舶運営会のいずれかの管理のもと戦時徴用され、殆どの民間の商船は丸腰(非武装)で、満足な護衛もつかな

い海上輸送は敵潜水艦の魚雷の絶好な標的となつて、海運・水産で働く6万余人の船員が犠牲となるとともに、商船や機帆船、漁船等約7200隻・880万総トンを超える船舶が失われた。

大阪商船の嘱託画家、大久保一郎画伯は、戦況の劣勢で社船が次々に撃沈されていった昭和17年(1942)、社長から「失われていく社船を記録に残してほしい」と指示を受け、戦時統制下の厳しい状況をおして、生還した船員たちから、沈没する船の様子、船員の遭難状況など戦場の生々しい証言を克明に聞きとって、忠実に記録画を密かに描き残した。

大久保画伯が描いた30号の記録画は、終戦直後のかん口令や復興の混乱の中で行方不明になっていたが、昭和57年(1982)に発見され、これを修復し37点の記録画を公開することとなり、昭和57年(1982)12月、東京日本橋の三越本店で第1回記録画展を開催した。

以来、北海道から沖縄まで、今回で29カ所・44回目の開催となった。

また今回は、大久保一郎画伯が描いた戦没船と船員の油彩画37点、油彩画のモノクロ写真12点(原画は現存しない)の他に、日本船主協会、日本海事広報協会提供の「日本の海・海運・船員」をテーマにしたポスター18点を展示するとともに、DVD「NHK特集・太平洋シーレーン

作戦」「第45回戦没・殉職船員追悼式」を放映した。

600人が来場

多くの来場者を迎えるため、顕彰会のホームページでの周知と海事関係団体の広報誌、業界紙などに開催案内を掲載していただくとともに、各行政機関、海事関係団体、マスコミ、山形市近隣の中学校、高等学校、公民館、図書館、美術・博物館などにポスターの掲示、リーフレットの配布依頼など、周知・広報活動を幅広く行った。

会期中、連日の猛暑にもかかわらず、ご遺族をはじめ海事関係者、遠方から、約600人が来場した。



記録画について説明する、田中善治船長(山形市出身)

記録画から受けた感動・感想

来場者のうち165人の方々からアンケートとともに記録画から受けた感想が寄せられました。その中から、来場の動機と感想の一部を紹介します。



絵画を熱心に見入る、来場者の皆さん

10代の驚き

●女性(中3・山形市) テレビ

学校で戦争のことは習いましたが、さらっとしかやっておらず、そんなにひどいものだとは思っていませんでした。ですが、今日の展覧会を訪れ、たくさん絵を見て、とても心が痛くなりました。どんな気持ちで沈んでいたかなど様々な疑問や気持ちがあふれてきました。幼い少

女を助ける絵を見たときは、こんな小さい子供も船に乗っていたなんて、と驚きました。

今の世の中は核実験などが進んでいたりと、冷戦状態が進んでいたりと、いつ戦争が起こればいいとおかしい状態です。今は軽く「戦争なんか起こっても大丈夫。」なんて思っている人がとても多くいると思います。もつと戦争のことをきちんと考え、止めて行かなければなりません。私は、この展覧会にもっと多くの人が足を運んでもらいたいです。そして、戦争の意識を高めてほしいです。今回は、この展覧会に訪れることができ、とても良かったです。山形でこのような素晴らしい展覧会をお開き下さりありがとうございます。

●女性(中3・山形市) ポスター

全部の絵画を見て、ほぼ悲しい絵しかなくてすごく心が痛くなりました。船が沈没している絵、人も巻き込まれている絵、それぞれ見て現実を見せられたなと思いました。昔の人は多く亡くなっているのに、今の自分は楽しく過ごしていて、なんか悔しい気持ちになりました。今の自分は「学校行きたくない。」と言っています、犠牲になった子供たちは行きたくても行けない子が多く

て、自分たちは図々しいなと感じました。今の時代はスマホ、テレビ、パソコンなどと当たり前のようになっていますが、昔の人たちからみると「なに、当たり前のように生活してんだ。」と怒っていると思います。本当にいろいろなと感じました。授業でアニメの「はだしのゲン」を見ました。それぐらいのレベルですごいと思いました。私は、この絵や教科書をみて「なぜ戦争をおこしたのだろう。」とつくづく思っています。今日、この美術館に来て良かったなと思います。本当にありがとうございました。

●男性(山形市) ポスター(学校で)

軍艦でもない船が戦闘に巻き込まれて、多くの命を失った。そんな時代に生まれなくて良かったと思います。防空火力もなく、敵機におそわれる。爆雷もなく潜水艦におそわれて行く。とても悲惨だと思いました。

●男性(山形市) ポスター(学校で)

船のこと、作品のことを知れて良かった。作品の中からその歴史やその状況などが伝わってきた。波の影のつき方、水が飛んでいるところなどがすごかった。船の細かい部分まですごかった。

私は船に残る船長の作品がとても印象に残りました。その船をとてもし大事にしていたのだと伝わってきました。これからも知らない歴史を知っていいこうと思いました。

大久保一郎画伯 (1889—1976)



大阪商船貨物船「ありぞな丸」宣伝用絵葉書の原画を前に、昭和31年(1956) 67歳

- 明治22年 大阪市富島町(現在の西区川口)で生まれる。
- 大正15年 大阪商船(現株商船三井)の嘱託画家に採用、初仕事に南米移民船「らぶらた丸」を描く。以後、同社の宣伝用絵葉書、航路案内、広報誌、ポスターの絵とデザインを担当する。
- 昭和17年 大阪商船、岡田永太郎社長の命により、同社の戦時徴用船最期の記録画を描き始め、終戦までに油彩30号約80点を制作する。
- 昭和51年 1月19日自宅にて死去、享年86歳。
- 昭和57年 旧大阪商船本社倉庫で大久保画伯の遺作37点が発見され、絵画修復家黒江光彦氏により修復。12月に東京日本橋・三越本店で第1回記録画展を開催。6日間の来場者は9000人。

20代の学び

●男性（宮城県）新聞を見て

国民一丸となつての戦争ですが、その中でも戦線の真つただ中に向かうことになった、戦時徴用船の乗組員の方たちの労苦や苦難を絵から感じることができました。

自身は内陸の生まれということもあり、船や太平洋の出来事を知る機会が乏しく感じていたため、今回の展示会はとても貴重なものの様に思いました。今後もこのような機会が増えるといいと思います。

●男性（宮城県）新聞を見て

戦時中の船というと、空母や戦艦など軍用のものしか気にしたことがなかった。

だが今回、戦時徴用船という民間



田中貴子さん、空来ちゃん（中3）
鳳介くん（中1）親子と田中善治船長

30代の印象

●女性（寒河江市）知人に聞いて

戦時徴用船の最期を伝聞して絵画に描かれたという、今までの展覧会とは違った趣旨である点に興味を持ち、拝見させていただきました。

社船が徴用されてゆく最期の記録、それは聞き取りとは思われない臨場感のある筆致でした。沈みゆく船に立ち万歳する船長さんの姿、魚雷攻撃を受けて水柱をたてる船、爆撃により猛火に包まれる船。船員さんらにとつて大切な相棒である船が戦下漂流し、敵の攻撃によつて最期を遂げたこと、私には想像するのも難しいほど、心痛むことだったと思います。その筆致のすばらしさに、さまざまさが伝わってくるようでした。

「戦時徴用船」の存在も知らなかったのですが、こういった貴重な展覧会を見ることができて心に迫るものがあり、感動しました。

また、1歳8カ月の息子は船のイラストやにゃん太君（日本海事広報協会のイメージキャラクター）が気に入って、指を差して喜んでいました。物流に欠かせない船のことがよくわかるパネルで、実際の大きな船を見せたいと思います。



石川恵里香さんご一家と、お手伝いいただいた
後藤祐希くん（東京海洋大学院生）

この度は、後藤祐希君から紹介された縁で素晴らしいものを鑑賞することができました。子連れで伺ったにもかかわらず、温かく迎えてくださったスタッフの皆様感謝申し上げます。ありがとうございます。

●女性 友人・知人に聞いて

乗組員の方の船に対する敬愛、愛情のようなものを感じた。帰還された方が亡き同僚の方を惜しむ思いが現れている作品に心が痛んだ。戦争という一つの出来事として、今後とも記録として残していくべきと感じた。

40代の感想

●女性（山形市）テレビを見て

8月のセミの声を聞くと戦争で苦しんだ祖父を思い出します。口数の



少ない人でしたが、戦争は「夢に」何度も出てうなされていたほど忘れられず、私も聞かれました。今は亡くなって戦争のことを聞くことはできませんが、このような絵を見ることにより、自分の幸せをかみしめたいと思います。

●女性（山形市）知人に聞いて

私の父は海軍に入つてすぐに戦争が終わったそうです。足に銃弾の痕があつただけで、生前その話をすることはありませんでした。亡くなつてから父の遺品を見ていたら海軍の資料などを集めていたのを見つけた。自分の子供たちの世代、次の世代に平和な世の中を、今戦争が起きている地域の人々も早く安心して暮らせるように、記録を大切に残し伝えていかなければならないと思います。

50代の想い

●男性 ポスターを見て(会場)

戦争はすべきでない大切な記録画だと感じました。これからも大切に維持して頂ければと思います。広島原爆資料館、長崎、呉の資料館も、今日日本が幸せであることは、昔に戦争で亡くなった犠牲者があったことを忘れず、良き日本を私たちも維持しなければならぬと感じます。今さえよければではなく、これからの世代にも引き継げるように。

●男性 友人・知人に聞いて

中学校で社会科を担当している者です。

授業ではもちろん戦争について扱うわけですが、時数的には2、3時間程度で、詳しいところまでは教え



小野塚二郎さんご夫妻と後藤祐希くん

られません。さらに、この戦没船員のことにについては私自身知りませんでした。したがって授業では全く扱っていません。

今回、この遺作展を拝見し軍人の死亡率を大きく上回る方が亡くなられたことを知って、改めて日本軍の無謀さを痛感したところです。

日本は海洋国家であり、多くの資源や食料は海上輸送に頼っています。そのことを考えると、平和があつてこそ日本の繁栄が支えられていることを考えなければなりません。

この遺作展は、そのことを改めて知らせてくれるものであり、かつ、子供たちにも伝えていかなければならないものだと思うさせていただきました。

●男性(山形市) テレビを見て

8月になると、戦争に関する報道、テレビ放送が多くなります。でも、民間の船が徴用され、どの様な内容のものだったかというのはほとんどありません。

今回、総力戦となった太平洋戦争に軍関係だけでなく、全ての者が巻き込まれていくということを徴用船の展示を通して知ることができました。戦争体験者の方がほとんどない中、こうした企画、絵画の保存はとても貴重なものだと思います。これからもぜひ活動を続け、民間人で戦いの中で亡くなった方がたくさんいたことを知らせていただきたいと思います。

60代の憤り

●男性(山形市) 知人に聞いて

この度、貴重な資料(遺作画)を通して、戦争はやってはいけない、ということを知り改めて認識することができました。

大戦後、「過ちは二度と起こしませぬから」と誓ったはずの日本人にも、いつの間にか時の経過とともに、その心が薄まってきているのは悲しいことです。海を守る人たちの活躍を期待しています。

●女性(山形市) 友人に聞いて

友人から案内を頂き、初めて見せてもらいました。戦争のことは話を聞くのがほとんどでしたが、このように実体験された方々のお話をもとに絵で再現されたと同じ、常の美術



渡部一恵さん(左)と田中佐代子事務局次長

山形で遭遇した
二ホンカモシカ

●男性 ポスターを見て(図書館)

ご説明くださった田中船長さんのお話にもありましたが、若い世代(小学生や中学生も含めて)の方々に見てほしいと思いました。田中船長さまの絵についての説明が、とてもありがたく思いました。

太平洋戦争は本当にムダな戦争であつた。しかし、私たちはその上に立って現在があるのでしよう。私の親の時代、生死をかけた生活のおかげで私たちの今があります。

私も60代、子供、孫のために平和な時代を守っていかなくてはなりません。現状を見ていけると戦争があつたことを忘れているように思うし、80代、90代の人々はずっと戦争について語るべきだろうと思います。戦後70数年、過去を思い出し、これからは平和について考えていきたいと思ひます。今回の企画は大変必要なことと思ひます。



記録画、日本の海運について説明する
日本殉職船員顕彰会の半田収理事長

●男性（山形市） 知人に聞いて

この度は、貴重な油絵の遺作展を拝見する機会をいただきまして、心より感謝申し上げます。

このように多くの民間船舶や船員の方々に犠牲が出ていたことに、改めて衝撃をうけました。輸送船が潜水艦や航空機の格好の攻撃目標になって多くの犠牲者が出たことは、色々な本で読んで知っておりましたが、具体的な数字とその背景までは記されている本が少なく、漠然としか理解しておりませんでした。戦争を始めた国家というものは、目的遂行のためにはあらゆるものを動員し支配下におき、人間さえも物のように扱われるということを改めて理解したところです。この遺作展は、戦争下にあった日本の事実を記した貴

重な史料であると思います。いずれも暗い空、暗い海の中に描かれた人々の姿には、文章では表せないものを感じました。田中善治船長からは、描かれたときは画中の人物の名前もすべてわかっていったということをお聞きし、ついこの間その事実があったことを改めて突き付けられました。

小学校教員として働いてきた者として、現在の歴史教育に大きな誤りがあるのではないかということを常々思っております。学校教育では、古代や中世を詳しく教え、聖徳太子や織田信長は全国民が知っているのに、広島や長崎、沖縄戦のことはもとより終戦の日さえも知らない若者が増えております。昭和史を駆け足で教えるため太平洋戦争などの重大な歴史事実への認識が年々薄くなっていることが危惧されます。あの戦争から日本人が学ばなければならぬと思うのなら、何よりも近現代の歴史を事実即して教えるべきなのではないかと思っております。

私は昭和29年生まれですが、私の子供時代は戦争漫画も多かったのですが、お祭りといえば傷痍軍人さんがあり、30年代後半テレビで戦争の記録映像が流されると悲惨な遺体や惨たらしい映像が沢山出てきました。戦争があったこと、人が死ぬとどうなるのかということ、子供ながらに感じ取りました。しかし、現

代では悲惨な映像は極力カットされ、戦争の事実が伝わらなくなっているような気がしてなりません。10年前でしたか、山形市立図書館で澤地久枝さんの「記録ミッドウエー海戦」を読んだことを思い出します。徹底したドキュメント作品でした。無電の交信記録、そして戦死した日米の将兵の膨大な記録でした。18歳や22歳の若者がアメリカ軍でも多く死んだことに衝撃を受けました。知られてない事実を丹念に拾い集めて記録に残さなければ、誰にも知られないままに消えてゆく人の命がたくさんあることを知りました。

この遺作展は、若い人にこそ見ていただきたい展覧会です。山形市での開催に来場者が少ないとのことをお聞きし、とても残念に思いました。このような活動を続けてくださっている日本殉職船員顕彰会の皆様に改めて感謝申し上げます。これからも長く戦争の悲惨さと平和の尊さを伝える活動を、お続けいただけますようお願い申し上げます。

70代の怒り

●男性 友人・知人に聞いて

戦中派の私は、5歳の時（昭和21年5月）中国より引き上げて来ました。田中善治さんの説明を聞いているうち目頭に涙が出てきました。引揚船の記憶が絵を見ながら想い出されたのでしょうか。

●男性（山形市） ポスターを見て

作者は、この攻撃されている場面に立ち会っていたかのように、如実に描いているところから、海上で攻撃される恐ろしさ、生々しさが伝わってくる。かつて旅行で仙台港から沖縄まで、1万3千トン級の客船で往復した経験があるが、デカイ船ほど乗り心地が良い安定感がある。

この戦時徴用船は1万トンに満たない船もある。軍需物資と人員を載せて之字航法をせざるを得なかった船長の思いを考えると、海に散らざるを得なくなった心境は如何ばかりであつたらうかと…。

こんな平和な時代の礎になられ「最期の時」を家族や、会社、世の中にも伝えられなかった姿を、絵画で我々に伝えてくれた作品は、後世にも残して伝えてほしい。



山形放送のテレビ取材を受ける
戦没船員ご遺族の須藤善友さん（中央）

●男性 友人・知人に聞いて
私の母方の叔父が海軍で、輸送船に乗船中沈められて救出されたものの、海中に漂うこと数日、海に流れ出た油のせいで、喉と胸を患い、いつも大きな咳をしていたのを覚えています。晩年、戦時中の話を少しずつ聞かせてもらいましたが、多くを語らずの武人でした。

自身の亡父は南方スマトラに陸軍で赴任し、終戦で戻ってきましたが多少絵心もあったせいか絵日記を前にして、当時の話をよく聞かされました。シンガポール、パレンバンにも度々行ったようで、インパールから戻ってきた兵達の話は、涙がでました。二人とも亡くなって20数年になります。

実際に体験した方々の話と、後年、マスコミ等で流される話とは、大分違いがあるように感じます。大久



戦没船員ご遺族の須藤善友さん（山形市）

仙台市から来場した
戦没船員ご遺族の和野隆悦さん夫妻

保先生の画には解説無用の激しさと悲壮感を同時に感じます。
改めて今回、拝観することができて、亡くなった父と叔父の話を思い出すことができました。

●女性（山形市）ポスターを見て
私は16年生まれ、戦争が始まった年です。父（大正2年生まれ）は私が1歳の時に戦争に行きました。戦争に行く前、記念写真を撮りました。父は日本の旗を持ち、母親の膝に抱かれ、父、母、両親、兄弟姉達、いそこ、親せきの方、25名ほど映っている写真を今も大切に持っています。父は傷一つなく帰ってきました。その後、いつも戦争の話をしていました。南方、フィリピン、自分が乗っていた船がオンボロ船だったので、命が助かって帰ってきた。大きな船は目の前で沈没していったと聞きました。頭の上に弾が飛んできた

●女性 友人・知人に聞いて
田中善治さんにお会いでき説明をしていただいて、絵の存在に関してのことも理解できてありがたかったです。

大久保先生の熱意、日本人の心情、会社の使命的指令、生き残った人たちの思い、ひしひしと胸を打ち、戦争の悲惨さを感じます。私も戦中（19年）に福岡で生まれ、防空壕に逃げた時代生まれ、戦争に行ったおじさんたち（沖縄、33連隊等々）のこととも思い出し、あらためて戦争の愚か



船の説明をする、半田収顕彰会理事長

こと。身の縮まる思いだったとよく話していました。
戦後、家族は食べ物がなく米がゆなど、米粒数えられるくらいでした。戦争は絶対いやです。
大久保一郎遺作品、大変心に沁みました。父の戦争体験を思い出しました。

山形放送のテレビ取材を受ける
戦没船員ご遺族の和野隆悦さん夫妻

●男性 たまたま山形に用事で来て
ニューギニア、ガタルカナルに徴用された父が、ほとんど戦争のことを話さなかったが、唯一船のことを言った記憶があります。それは乗船する予定であったが何らかのことで乗らなかつた。その船が沈没してほとんどの人が亡くなったとのことである。「俺は運が良かったなあ……」偶然この絵に巡りあえたことは……。あとが続かないので終わりにします。

貴重な絵が残ったということ、ありがたいことです。少しでも多くの人に、この絵が何かを訴えてわからせてくれることを願います。



船のイラストやにゃん太君がお気に入りの
石川恵里香さん親子

●男性（山形市）テレビを見て

非常に無惨で悲惨な思いを改めて強く感じた。こんなことが再び起こらないようしなければ、亡くなられた多くの方々に申し訳ないことだ。

最近の防衛省の民間船徴用と船員を自衛官補に任ずるような動きは、歴史に学ぶことと真逆の極めて危険な動きであることを、多くの国民と共有しなければならぬ。

8月15日の終戦記念日を中心に、1年の一つの節目として、戦争の問題意識を再認識する大切な期間とすべきだ。

●男性（山形市）ポスターを見て

人間自身、人間が創造したあらゆるものが、国家権力または一部権力者によって、破壊と殺戮が現実となつて表現された様は、何ともひどいものである。現在もその方向に進ん

80代の嘆き

でいるのではないかと危惧されます。今後とも平和憲法のもとに暮らしたい。政府が出す政策は今現在、ハラハラし、希望が無くなるような内容です。

●男性（山形市）ポスターを見て

私は大正15年11月生まれの91歳の男です。学徒動員により神奈川県藤沢市の日本精工というベアリング工場で約1年働きました。当時の状況を思い浮かべると、これらの絵は本当に強いショックを受ける感動的な絵であります。良くこれだけ現実的に印象深い絵が描けたものと驚きました。すばらしい感動を与えて頂き、心から敬意を表します。担当された方々の労苦いかばかりかと推察いたします。



●男性（山形市）友人・知人に聞いて

戦争は絶対にしてはならない。大国を相手に何故戦争をしたのか、暴徒としか云えない。残念だ。

父は戦前に米国のフォード自動車を改良して貨物自動車として組み立てていた。その当時、日本の工具は不良品が多く、アメリカ製の工具が優秀で父は戦争中、日本は米国に勝つことはないと思う話をしていた。無謀な戦争と思われた。

●男性（山形市）テレビを見て

私は、昭和16年4月入学。その年から国民学校、太平洋戦争はまだ開戦しておらず、その年の12月8日太平洋戦争が始まり、5年生の夏、8月15日終戦。

私は戦前、戦中、戦後を生きてきていやというほど味わってきたが、今回の遺作展を見て、あまりにも知らないことが多いことに気づきました。戦争はいやだ！

●男性（寒河江市）友人・知人に聞いて

終戦を台湾で迎え、現地では米軍の空襲や飛行機からの銃撃でケガをした近所の人など体験し、昭和21年に無事山形に着きましたが、本日の徴用船の最期を見て、私は生きて幸せだったんだと痛感しました。

●男性 友人・知人に聞いて

戦争は忘れさられることはないでしょう。若い人々にこそ、負の歴史を伝えて行くことが必要であるでしょう。現在も何かが起こる可能性は



何時でもあります。不信心はどこかで、どこで判断すべきか、私たち一人一人がためされているかもしれない。

●男性（山形市）家族に聞いて

終戦当時、私は小学校4年生でした。大戦中は毎日のように小旗を振って出征兵士を送ったこと、学校では自分たちが入る防空壕を掘ったこと等々が、地域の出来事として思い出されます。

本日、貴顕彰会による「戦時徴用船の最期 大久保一郎遺作展」を無念の思いで拝見しました。

大久保画伯が後世に伝えたことは、大海に散った船員6万余人の追悼と海運界の安全を祈ると共に不戦の誓いを新たにしてくれたことです。遺作展の開催に感謝します。

船長の肩振り

続・続編

田中 善治

田中善治さん
山形市の記録画展で

「船長の肩振り」の著者・田中善治さんは、16歳で船員を志し、海上生活20年。陸上勤務30年。現役引退後、執筆や講演、アドバイザー、オーブンカレッジでの受講等々、現役時代とは異質の緊張感の中を走ってきました。常に悔いのない人生を：と思いつつ、ふと我に帰ると齢80年。「温故知新」をモットーにその場、その場で書いてきたエッセー集です。その一部を紹介します。

殉職船員

太平洋戦争が日本の無条件降伏でピリオドを打って68回目の8月15日、あの日もカンカン照りの暑い日だった。近所で唯一ラジオのある隣の奥座敷に近所の人が集まり、汗を拭き拭き微弱な電波のため聞き取りにくい玉音放送を聞いた。子供らは大人たちの後ろで庭石に神妙に腰かけて聞くふりをしていた。毎年8月15日政府主催で東京・九

段の日本武道館に数千名が出席し、天皇皇后両陛下御台臨の上執り行われる全国戦没者追悼式は今年52回を数えた。

この追悼式に合せて昭和56年より毎年（公財）日本殉職船員顕彰会（東京・麹町）主催により、観音崎公園の「戦没船員の碑」前で終戦記念日献花式を行っている。本年（平成25年）5月14日現在この碑には戦乱の中で亡くなった船員60609名、戦後の殉職船員2962名、合計63571名のご芳名と没年月日を浄書した名簿が奉安されている。

この日11時30分、観音崎京急ホテルに主催者顕彰会の役・職員はじめ海事関係者51名が集合し、ホテルのマイクロバスで式場へ向かった。私は自家用車で行ったこともあって、主催者職員とともに公園内のアクセスの安全確保に当たった。

炎天下、全員碑文石前に整列し、かつての戦場で無念にも海に散った私たちの先輩が眠る海上を遥かに望み、追悼の念を新たにした。式場にNHKのラジオ放送を流して武道館での式次第に合わせた。

安倍総理大臣の式辞のあと正午の時報を合図に1分間の黙祷。（私は夜間沿岸航行中、灯台の点滅秒数や、天体観測時の时辰儀（クロノメーター）を覗くまでの秒数カウンターの癖で、不寐にも心の中でカウントしてみたら3秒オーバーの63秒だった。

加齢と共にオーバー分だけせっかちになっているのだろう）

天皇陛下の「戦争の惨禍を繰り返さぬよう願うと共に世界の平和と我が国の発展を祈る」とのお言葉を拝聴して献花式は終了した。

新聞報道によると政府は日中・太平洋両戦争で亡くなった軍人・軍属は230万人という数字を公式に採用してきた。が、「その6割は餓死した」との学説もあるとのこと。兵站を無視した無謀な作戦がこうした惨事を招き「軍の指導者達は無責任と愚劣さで兵士達を死に追いやった」と、今年84歳の作家半藤一利氏は憤慨されている。

230万人の戦死者にたいしては政府主催で毎年このように盛大な追悼式を行っている。片や、6万余名の殉職船員は軍事政権の思いのままに軍馬、軍犬、軍鳩以下の扱いを受けて海の藻屑と消されてしまったが政府は何もしてくれない。総員退去時、船員が必死に救助作業に当たっている際「船員を叩き殺せ、兵隊一人が助かる」と暴言をはく士官がいたという。（（財）日本殉職船員顕彰会発行復刻版・画集「戦時徴用船の最期」74頁）

軍部には海上のロジステックの重要性を考える者もなく、船舶と船員を消耗品とみなしていたことは戦時の造船政策にも垣間見ることができ。戦時標準船（戦標船）を「機関

1年、船体3年」とし、シアール、キヤンバーなど面倒なことを廃止して造つたために座礁しただけで大破した。またボイラーの爆発などが頻繁に発生した。27種の〇〇型と称した戦標船を無力感と諦めで声をひそめ「轟沈型」とあだ名で呼んでいたという。

粗悪な戦標船をざっと数えても1600余隻造った。このような船に半ば強制的に乗せられた船員はどうしようもない運命を悟って航海したに違いない。一方、敵国アメリカの戦標船はリバティー型、ビクトリア型及びタンカー合計2712隻建造し、その約60パーセントが生き残って戦後ほぼ20年間、世界の海運界復興に寄与した。

その戦標船2隻が今でも大事にされているという。（平成26年8月29日記）

「肩振り」とは？

長い航海の日々、無聊の慰みに、出身地のことや寄港地で見聞きしたこと等を、枝葉と尾ひれをいっぱい付けて、身振り手振りで面白おかしくしゃべりまくること。

（「船長の肩振り」本文より）

田中 善治

著書

「船長の肩振り」

「船長の肩振り・続編」

「船長の肩振り 続・続編」

海事補佐人

（一社）全日本船舶職員協会名誉会員
日本海洋人間学会会員

観音崎公園 戦没船員の碑

海の日清掃・献花式 横須賀海洋少年団

昨年7月22日、横須賀海洋少年団「海の日」行事として恒例の「戦没船員の碑」清掃と献花式が行われた。強い日差しが照りつける猛暑の中、観音崎公園に集まったのは、小学生から高校生までの横須賀海洋少年団と大和海洋少年団の団員8人と保護者、指導者ら約30人。これに顕彰会と海事関係者が加わって、汗だくになりながら1時間余り清掃した。辺りがすっかり清められると「安らかにねむれ わが友よ 波静かなれ とこしえに」と刻まれた碑文石に全員で黙とうを捧げ、一人ずつ白菊を献花した。

横須賀海洋少年団には、海上自衛隊横須賀地方総監部、横須賀土木事務所とともに、第一回追悼式からご支援・ご協力をいただいている。団員から活動などについて、話を聞いた。



「戦没船員の碑」と周辺を清掃した後、献花式のセレモニーで、黙とうを捧げる海洋少年団の皆さん

長島 聖瑛くん



中学生になりました。小学生の高学年ごろから自分より年少の団員のお世話もしながら活動するようになったので、難しいことも増えてきました。周りをよく見ながら、指示を出し自分の仕事もこなすのは大変です。戦没船員の碑の掃除は今年で6回目の参加。戦争のことも学習しました。船員さんが心安らかに眠れるように、きれいにします。

井場 大輝くん



今日も掃除を頑張ります！活動は厳しいこともあるけど、楽しいこともあるので続けたいです。もう少し涼しかったらもっと頑張れるのかなと思います。

井場 大翔くん



適度に水分をとってこまめに休憩をさみながら掃除します。今年は目につくごみが少ないので、ごみ拾いだけでなく、目立つ雑草なども刈ってしまいたい。碑の周りはきれいなので、わきや広場の隅の目立たないところを掃除します。

長島 崇瑛くん



もう何回も戦没船員の碑の清掃に参加しています。自分より年下の団員もたくさん増えました。年長だから鎌を使っていいといわれたので、ゴミを拾うだけでなく

雑草も刈り取り、きれいにします。スロープの道にまで雑草が生い茂ってきているので、今回はスロープ中心にきれいにします。学校で戦争のビデオを見たりして戦争について学習しました。とても怖かったです。

杉山 風沙さん



海洋少年団の活動は、ロープワークやカヤックなど楽しいことがたくさんあります。今日の掃除もみんなと一緒に頑張ります。将来は医者さんになりたいなと思っています。



掃除、草刈りに精を出す海洋少年団のみなさん

■杉山 七海さん



大和海洋少年団からの参加です。

今年は例年になく暑いですが、気持ちよく8月15日

を迎えられるようしっかりと掃除したいと思います。

今回参加した団員の中では年長で、号令やほかの団員をまとめることも求められるので、今まで以上に難しく戸惑うこともあります。

以前、職業体験をしたことが縁で将来は福祉士になりたいです。

■岸 遥斗くん



今日はすごく暑いので、夢中になりすぎて、倒れないように気を付けます。

たくさん

船員さんが眠っている船員の碑の周りもきちんと掃除しなければいけません。スロープのあたりを重点的にごみ拾いしようと思います。スロープの周りは、雨が降ると滑って危ないからです。

みんなで掃除すればすぐキレイになると思います。

■山本 尚虎くん



何回目の参加かは忘れてしまいましたが、初めてではあります。

今年もた

さん葉っぱが落ちていいるなあ、できるだけいっぱい集めようと決めて掃除を始めました。

そう思ったけれども、みんなですせいにゴミを拾うので、あつという間に拾える葉っぱはなくなってしまう。

みんなが気付かないようなところにある葉っぱも頑張って集めてきます。



掃除後に挨拶をする岡本永興常務理事

ご協力 ありがとうございました

横須賀海洋少年団の「海の日」行事、清掃活動に参加した団員の皆さんに、感謝の記念品を今回もたくさんご提供いただきました。子供たちは大喜びで「ありがとうございます」と声高らかにお礼を述べていました。

ご提供いただいた会社、海事団体は次のとおりです。

日本郵船・商船三井・川崎汽船・日本船主協会・大日本水産会・日本内航海運組合総連合会・日本海事広報協会・日本水路協会・日本中小型造船協会・海技教育機構・全日本海員組合・全日本海員福祉センター

(順不同)



提供されたグッズを手に、皆で記念写真

殉職船員遺族援護

ご遺族からのお便り

殉職船員ご遺族の方々からのお便りを紹介します。

■水野真由美さん (愛媛県)

いつもお世話になってます。就職も無事に内定が決まり、元気に過ごしています。

■織田幸恵さん (広島県)

いつもお世話になっております。

この夏は、猛暑に豪雨災害…と心を痛めました。その分お互いを思いやることも増えました。みんなが安心してすごせますように。

■大竹初美さん (三重県)

いつもありがとうございます。

最近、夏から秋にかけて、台風が3回ほどやってきて、それも、大型ばかりで、家のカーポートの屋根がとんだり、外壁がとんだり困っています。修理にも時間が、かかってしまっています。(家族は元気です。)

■佐藤亜希さん (青森県)

いつもありがとうございます。

皆様のご厚情に感謝申し上げます

平成30年7月1日以降、平成30年11月30日までの間に、次の方々に新たに賛助会員、協賛会員として加入いただきました。

また、次の皆様からご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

本会の事業運営は、基本財産の運用益のほか、会員からの会費や寄付金、海運・水産・旅客船などの会社および海事関係団体からの会費や補助金などで、戦没・殉職船員の慰霊・顕彰とご遺族への援護事業を支えています。

会員制度には、賛助会員と協賛会員があります。

■賛助会員には、「法人」と「個人」があり、年会費は○法人賛助会費＝10万円、○個人賛助会費＝10万円を願っています。

■協賛会員は「個人」にお願いしているもので、年会費は103千円です。

当会は、税制上の優遇制度による税額控除の対象法人です。当会への寄付金（賛助・協賛会費、献花料等）は、確定申告を行うことにより、「所得控除」「税額控除」の対象となり税金の還付が受けられます。

新たな賛助会員の皆様（順不同）

- 葛谷 文乃様（千葉県印西市）
- 深谷 三郎様（水戸市）
- 水野 孝様（千葉県市原市）
- 水野 正治様（横浜市）

新たな協賛会員の皆様

- 會田 智康様（千葉県船橋市）

追悼式献花料

- 河合ハル子様（横浜市）

寄付金

- 塩沢 正様（神奈川県秦野市）
- 角本 稔様（神戸市）

遺族援護寄付金

- 河合ハル子様（横浜市）

戦時徴用船の最期

大久保一郎遺作展寄付金（順不同）

- 田島 義彦様（山形市）
- 長谷山 裕様（山形県天童市）
- 牧野 呂蘭様（山形市）
- 遠藤 英様（山形県米沢市）

終戦記念日献花式供花料（順不同）

- 日本内航海運組合総連合会様（東京都千代田区）
- 多胡 明美様（東京都小金井市）

終戦記念日献花式

平成30年8月15日（水）、連日の猛暑が続くなか神奈川県立観音崎公園「戦没船員の碑」（横須賀市）に、朝倉次郎会長はじめご遺族、前職および現職役員ならびに評議員、海事関係者ら46人が参列し、終戦記念日献花式が挙行された。

献花式は例年どおり日本武道館で行われた政府主催の全国戦没者追悼式の進行に合わせ、執り行われた。

東京湾口を望む慰霊碑に供花し黙とうを捧げ、戦没船員・殉職船員の御霊の鎮魂と安らかなることを祈るとともに海洋永久の平和を誓った。



お知らせ

第49回

戦没・殉職船員追悼式

日時 2019年5月15日（水）

午前11時 開式（予定）

場所 観音崎公園（横須賀市）

「戦没船員の碑」にて

交通①京急浦賀駅、JR横須賀駅から観音崎行き京浜急行バス乗車。

『観音崎』バス停下車

②午前9時から11時10分まで『観音崎』バス停から式典会場まで無料マイクロバスで送迎します。

*乗用車による式場乗入れはできません。

※式典には、全国の遺族、関係者の参列をいただいています。ご案内状の発送は4月上旬を予定しておりますが、ご案内を差し上げない方々も自由に参列できます。

※式典会場は屋外となります。近年の温暖化の影響で晴天の場合は気温が高くなることが予想されます。

暑さ対策として、帽子・日傘・水等をご用意ください。

※式典は雨天でも行いますので、雨具の用意をお願いします。